20110529 世界記憶遺産

その絵は、照明のカンテラを提げて地底に降りる母子を描いている。父ちゃんはもう採炭場だ。母の肩には３人分の弁当、少年の背には赤ん坊。母がおんぶすると坑道の低い天井で頭を打つので、と説明文にある▼

这幅画画的是母子三人提着灯笼下煤矿的场面。父亲正在矿下挖煤。母亲肩上挎着三人一天的饭菜，少年背着一个小孩。旁边有文字说明：如果母亲背的话，小孩的头会碰到坑顶。

明治から昭和を生きた「炭鉱絵師」山本作兵衛は、石炭掘りの仕事と生活を活写した。きつい坑内作業、混浴の共同浴場、夫婦げんか。お互い命がけという連帯感と、家族労働が育む濃密な社会である。作兵衛の炭鉱絵が、ユネスコの「世界記憶遺産」に登録された▼

山本作兵卫是一个画家，生活在明治昭和年间，他的作品真实的再现了煤矿生活，被称为“煤矿画家”。狭窄坑道里的艰辛挖掘，热气腾腾的混浴澡堂，无所顾忌的夫妻吵架。一幅幅真实的画面向我们展示了这样一个草根社会：为了活下去，每个家庭都是不分男女不分大小，共同劳动相依为命。也正是这个原因，他的画被联合国教科文组织认定为【世界记忆遗产】。

幼少期から両親について福岡県の筑豊炭田で働いた。もともと絵心があり、現場を離れてから９２歳で没するまで、日記と記憶を頼りに千点以上を残した。素朴にして誠実な作品には、掘り道具が響き、汗が臭う▼

少年时代，他曾经跟随父母在福冈县筑丰煤矿生活过一段时间。他本来就有绘画天赋，离开煤矿后仍然坚持作画，直到92岁临终前。日积月累，共留下画作、日记等作品一千多件。朴素真实的画面上，我们仿佛听到铁锹的挖掘声，闻到工人身上的汗臭味。

「私の絵には一つだけうそがある。坑内は真っ暗で、こんなにはっきり見えやしません」。中小炭鉱の閉鎖が続く中、ヤマの実像と人情を孫の世代に伝えたい一念で、色までつけた▼

“我的画有一个地方不真实。矿道里本来一片漆黑，没有灯光。”中小煤矿封山以后，为了再现当时矿工生活的真实情况，使之流传后世，他后来又在画上添加了颜色。

記憶遺産には「アンネの日記」「フランス人権宣言」など、人類史に刻むべき文物が名を連ねる。炭鉱絵は、近代化を底辺で支えた人々を同じ目線で描いた点が評価された。日本から初めて、そうそうたる史料の仲間入りだ▼

世界记忆遗产全是【安妮日记】【法国人权宣言】这样彪炳史册的作品。煤矿绘的入选在日本是第一次。之所以入选，是因为它以草根的视角，描绘了草根的社会生活。正是这些草根们，在社会的最底层为日本的近代化做出了贡献。

国宝とは無縁の「労働絵巻」が、一足飛びに世界公認のお宝になる痛快。年に２００升を空けた作兵衛のこと、地の底に消えた幾万の命と祝杯を交わしていよう。早くから絵の価値を認め、とうとう世界に発信した筑豊の人たちにも、乾杯。

【劳动画卷】在日本国内得不到重视，不能成为国宝，但它却一飞冲天，成为世界至宝。痛快！作兵卫豪饮，他一年要喝200升，也许现在他正在地下，和当年的那几万矿工一起干杯吧。是筑丰人最早发现煤炭绘的价值，并把它推向全世界，来，也为他们干一杯。